

# 海軍公報 (部内限) 第四百四十九號

昭和十七年七月二十三日(木)  
海軍大臣官房

## ○ 令 達

官房第四五〇〇號

一 會計規則等戰時特例第一條ノ規定ニ依リ艦隊經費及支那方面艦隊經費支辨ノ艦船部隊等ニ於ケル支出濟ト爲リタル歳出ノ返納金及恩給國庫納金ヲ歳入ニ組入レントスルトキノ歳入徴收官ハ所管鎮守府又ハ所屬警備府ノ海軍經理部長トス

二 會計規則等戰時特例第二條ノ資金ニ付テハ支出官ハ必要ニ應ジ海軍官衙勤務ノ職員ヲ資金前渡官吏ト爲スコトヲ得

三 會計規則等戰時特例第十八條ノ規定ニ依リ別表ノ通海軍會計規程等ニ規定スル帳簿ヲ以テ會計規則及各特別會計規則ニ規定スル帳簿ニ代フルコトヲ得

昭和十四年官房第二七五三號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月二十一日  
海 軍 大 臣

(別表添)

官房機密第九一四五號

昭和十七年官房機密第一一三五號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月二十三日

海 軍 大 臣

「機雷長主管ノ兵器」ヲ「兵器ノ一部」ニ改ム

参照 昭和十七年官房機密第一一三五號ハ當分ノ間大阪海軍軍需部ニ於ケル所掌軍需品ヲ定ムルノ件ナリ(二月二十七日海軍公報(部内限))

## ○ 通 牒

官房第四三三三號ノ三

昭和十七年七月二十三日

海 軍 省 副 官

關係各廳長殿

國民學校職員ノ工場見學ニ關スル件申進

國民學校修了者ノ就職ニ關シ共ノ志向ヲ國民動員産業ニ嚮ハシメ共ノ配置ニ付更ニ適正ヲ期セン趣ヲ以テ毎

海軍公報(部内限) 第四百四十九號 昭和十七年七月二十三日

七八七

年夏期休暇中(今後三年間實施ノ豫定)國民學校ニ於ケル職業指導關係職員ヲシテ軍作業廳及右産業ニ屬スル代表的工場ヲ見學セシメラルニ付便宜供與ヲ得度旨厚生省當局ヨリ依頼有之候條右見學方願出アリタル場合ハ差支ナキ範圍ニ於テ可然便宜ヲ與ヘラレ度

○ 辭 令

海軍造兵少將 清水 文雄

海軍武官任用委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス

海軍規格審議會議員ヲ命ス

海軍大佐 山本 善雄

海軍學生銓衡委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス

支那事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス

海軍服制研究調査會委員ヲ命ス

思想調査委員會委員ヲ命ス

燃料政策調査會委員ヲ命ス

軍港要港勢力標準調査委員會委員(幹事)ヲ命ス

兵食研究調査委員會委員ヲ命ス

文官普通懲戒委員ヲ命ス

船舶海難事故處理委員會委員ヲ命ス

陸海軍航空委員會委員(幹事長)ヲ命ス

軍港都市調査委員會副委員ヲ命ス

陸海軍石油委員會幹事ヲ命ス

獻金運用委員會委員ヲ命ス(以上海軍省)

海軍少佐 松本 作次

第一課勤務ヲ命ス(海軍省軍務局)

海軍中佐 芳根 廣雄

大和田海軍通信隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂

ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(海軍省軍務局)

海軍省經理局長)

○ 雜 款

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣付(軍事郵便)

ウ五〇 ヲ參七氣付

(第二十三驅潛隊)

司令、主計長宛  
軍醫長宛  
機關長宛

甲 山 丸  
葵 丸  
第十德豊丸  
(第三十四掃海隊)

○残務整理  
弘玉丸残務整理事務所ヲ横濱海軍監督官事務所内ニ設  
置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去  
伊澤部隊残務整理事務所ヲ七月二十三日撤去セリ

海軍公報(部内限) 第四千四百四十九號

昭和十七年七月二十三日

七八九

1697

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四千五百十號

海軍大臣官房

昭和十七年七月二十四日(金)

## ○告示

海軍省告示第一號ノ九

第三艦隊及第八艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置ク

昭和十六年海軍省告示第一號ノ四ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月十四日

海軍大臣

参照 昭和十六年海軍省告示第一號ノ四ハ第一航空艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置クノ件ナリ

海軍省告示第一號ノ一〇

第三艦隊軍法會議ヲ第一航空艦隊軍法會議ノ後艦隊軍法會議ニ指定ス

昭和十七年七月十四日

海軍大臣

## ○通牒

官房機密第一二八〇號ノ一五

昭和十七年七月十四日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規申左記ノ通改メラレ候

記

附錄 所在地區別符表(其ノ一) 末尾ニ

ニユーブリテン ヲ壹壹八 ヲ加フ

同 (其ノ三) 中末尾ニ

ニ コ バ ル イ貳九 ヲ加フ

ナ シ コ リ ー イ參〇 ヲ加フ

同 部隊區別符表(其ノ一)中「第七根據地隊 ヲ九參」ヲ「父島方面特別根據地隊 ヲ九參」ニ改メ「第

海軍公報 (部内限) 第四千五百十號

昭和十七年七月二十四日

七九一

1698

七防備隊 ヲ九四」ヲ削リ同表末尾ニ左ノ如ク加フ

海軍通信隊	ウ壹五五
第二十一航空隊	ウ壹五六
美幌航空隊	ウ壹五七
木更津航空隊	ウ壹五八
第六航空隊	ウ壹五九
吳鎮第三特陸	ウ壹六〇
横鎮第一特陸	ウ壹六一
横鎮第三特陸	ウ壹六二
第一航空基地隊	ウ壹六參
第八艦隊司令部	ウ壹六四
第七根據地隊	ウ壹六五

同 部隊區別符表「其ノ四」中末尾ニ

第二十二通信隊	セ五六
第二十三通信隊	セ五七

ヲ加フ

附表中第六海軍軍用郵便所ノ項中「第二派出所 安慶」ヲ削ル

官房第四四五號

昭和十七年七月二十四日

海軍省 副官

各廳長殿

特別軍事郵便ニ關スル件通牒

南方方面軍人ト銃後トノ間ノ軍事郵便ノ速達ヲ圖ル爲左ニ依リ特別軍事郵便物ヲ取扱フコトニ定メラレ候

一 海軍省發行往復葉書(極兵品)ヲ軍人ニ對シ概ネ一ヶ月二枚ヲ標準トシテ配付ス

二 軍人ハ本往復葉書ヲ使用シ通信文記載(自己ノ所在地ノ記載方ハ普通軍)ノ上最寄軍用郵便所ニ差出シ軍用郵便所ハ海軍定期航空機ニ搭載差立ツ

三 返信人ハ半葉ヲ切取り貳錢切手ヲ貼付ノ上軍事郵便トシテ投函シ遞信省所定ニ依リ定期航空機ニ搭載差立ツ

四 差當リ實施地域ヲ左ノ通トス

海南島、比島、佛印、泰、馬來、ビルマ、東印度、内南洋、ニユーギニヤ

備考 本往復書ハ餘裕アル場合軍屬ニモ使用セシム  
ルコトヲ得

軍需需第二四七號

昭和十七年七月二十三日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長殿

下士官及兵考課調査表用寫眞ニ關スル件

通牒

昭和八年軍需需第六七號通牒首題ノ件左記中下士官及  
兵ノ一人當ニ對スル支出金額ヲ左記ノ通改正ス

記

下士官 二十五錢以内

兵 十五錢以内

(鑑管需品燃料取扱例規二八四頁參照)

○ 辭 令

(各通) 臺灣總督府地方理事官 綾部 慎平  
臺灣總督府技手 越智 竹直

海南警備府附ヲ命ス(海軍省)

臺灣總督府屬 齋藤 隆

遞信局書記 典精 和男

第一海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省)

海軍公報(部内報) 第四千五百十號

昭和十七年七月二十四日

七九三

1700

# 海軍公報

(部内限) 第四千五百一十一號

昭和十七年七月二十五日(土)

海軍大臣官房

## ○令達

官房第四五六七號

報國號飛行機命名式左ノ通施行ス

昭和十七年七月二十五日

海軍大臣

一 命名式舉行日時、場所

日時 昭和十七年九月五日(土曜日) 一三〇〇

(晴雨不拘)

場所 軍人會館

二 命名スベキ飛行機番號、名稱、機種、獻納者住所氏名

報國番號	名	稱	機	種	獻納者住所氏名
第九三三號	第	輕金屬號一	艦上	戰鬥機	東京市麹町區大手町一ノ六 輕金屬製造業者一同
第九三三號	第	輕金屬號二			代表 帝國輕金屬株式會社
第九三四號	第	輕金屬號三	艦上	爆撃機	社長 大屋 敦

第九三五號

第 輕金屬號四

陸上攻撃機

三 命名式主務廳 海軍省軍務局

四 命名式委員長 海軍省軍務局第四課長

## ○通牒

海人第一二三號

昭和十七年七月二十二日

海軍省人事局

部内各廳御中

現役海軍士官名簿電報符改定ノ件通知

昭和十七年度現役海軍士官名簿(追録共)中藥劑科士官ニ對スル電報符ヲ八月一日以後左記ノ通改定セラレ候條訂正相成度

記

海軍藥劑少將清水辰太ヲ「A一」トシ各任官順序ニ從ヒ相當番號ヲ附與ス

海軍公報(部内限) 第四千五百一十一號 昭和十七年七月二十五日

七九五

1701

經物第一三四號

昭和十七年七月二十三日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約者ニ關スル件通知

昭和十六年九月經物第一六三號別冊首題承認者名簿中  
左記ノ通告正致候

記

一 追加スル者

會社名	所在地
小知和重工業株式會社	東京市京橋區木挽町一丁目二番地
朝鮮商工株式會社	朝鮮鎮南浦府三和町七八番地
道府縣木材(又ハ林材)株式會社 又ハ之ニ準ズベキモノ	各道府縣廳所在地
大島外治 (日滿スナツ) ア製作所)	大阪府東淀川區元今里北通三ノ三〇番地
吉川 潔 (吉川機械製) 作所)	大阪府旭區關目町二丁目三二七番地
小幡孝一 (大阪ビスト) マリング製) 作所)	大阪府此花區恩貴島南之町一八六番地

一 削除スル者

會社名	所在地
道府縣木材業組合聯合會 又ハ之ニ準ズベキモノ並ニ同 代表者	

○ 辭令

(各通)

昭和十七年七月及八月施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試驗臨時委員ヲ命ス

(各通)

海軍少佐 矢野 邦弘  
海軍大尉 江副 鶴雄  
海軍大尉 有 本 正  
海軍中尉 鈴木 健治

海軍武功調査委員ヲ免ス

支那事變從軍記章授與調査委員ヲ免ス(以上七名)海軍省)

齋藤 正作

在亞館附武官室ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(昭和十六年軍令部)

海軍少佐 宮崎 勳

第三課勤務ヲ命ス(海軍省兵備局)



○雜款

○書類送付ノ件照會  
今般内令第千二百四十四號ヲ以テ海軍功績調査部規程  
發布セラレ候處從來ノ海軍武功調査關係書類ハ特ニ定  
メラレタルモノノ外自今左記宛發送相成度

記

東京市麴町區内幸町一ノ一

海軍省第二分室

(海軍功績調査部)

○開隊

當隊七月十四日埼玉縣北足立郡大和田町ニ開隊セリ

追テ旅行順路竝ニ郵便物發送先左ノ通

一 旅行順路

省線池袋驛ヨリ武藏野線東久留米驛又ハ清瀬驛下  
車(徒歩約四十分ヲ要ス)

一 郵便物發送先

埼玉縣北足立郡大和田郵便局氣付

尙速達郵便料金ハ十二錢也爲念

(大和田海軍通信隊)

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千百五十二號

昭和十七年七月二十七日(月)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第四三五九號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

新設海軍軍用郵便所ノ事務開始ハ追テ之ヲ定ム

昭和十七年七月十四日

海 軍 大 臣

表中第十海軍軍用郵便所ノ項「所員 專任 三十八人 判任 五十五人 雇員」ヲ「所員 專任 十六人 判任 十八人 雇員」ニ、第二十五海軍軍用郵便所ノ項「所員 專任 三十三人 判任 三十三人 雇員」ヲ「所員 專任 十一人 判任 十二人 雇員」ニ、第四十一海軍軍用郵便所ノ項「所員 專任 八人 判任 十九人 雇員」ヲ「所員 專任 十三人 判任 十五人 雇員」ニ改メ第十海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ

第十一海軍軍用郵便所	第五根據地隊	横須賀鎮守府	第四艦隊	監督官 兼務 一人
				所長 專任 一人 奏任
				所員 專任 五人 判任 十人 雇員

海軍公報(部内限) 第四千百五十二號

昭和十七年七月二十七日

七九九

1704

第二十五海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ

第十二海軍 軍用郵便所	第八根據地隊	右	同	第八艦隊	監督官 所長 兼務 所員 專任 專任 專任	一人 一人 五人 五人 十人
第十三海軍 軍用郵便所	第六根據地隊	右	同	第四艦隊	監督官 所長 兼務 所員 專任 專任 專任	一人 一人 十二人 十七人
第二十六海軍 軍用郵便所	第二十一特別 根據地隊	吳鎮守府	艦	第二南遣 隊	監督官 所長 兼務 所員 專任 專任 專任	一人 一人 八人 八人 八人
第二十七海軍 軍用郵便所	第二十二特別 根據地隊	右	同	同	監督官 所長 兼務 所員 專任 專任 專任	一人 一人 五人 五人 一人

第三十六海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ

第二十八海軍軍用郵便所	第二十四特別根據地隊	右	同	右	同	所長 專任 一人 奏任	所員 專任 八人 奏任	專務 八人 雇員
-------------	------------	---	---	---	---	-------------	-------------	----------

第四十海軍軍用郵便所	第十一特別根據地隊	佐世保鎮守府	第一南遣艦隊	監督官 兼務 一人	所長 專任 一人 奏任	所員 專任 三人 奏任	專務 九人 雇員
------------	-----------	--------	--------	-----------	-------------	-------------	----------

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭和十七年二月十九日本欄)

官房第四五八〇號

昭和十六年四月一日入團シタル者ニシテ師範學校ヲ卒業シ國民學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ有スルモノノ海軍三等兵曹ヘノ任用ハ左記ニ依リ之ヲ行フモノトス  
昭和十七年七月二十七日

記

海軍大臣

○ 辭令

一 臨時任用期日 昭和十七年九月十五日  
二 定期任用期日 (臨時任用ニシタル者) 昭和十八年一月十五日

海軍航空本部造兵監 督官海軍機關中佐 山川 義夫  
福岡監理官兼八幡監理官ヲ命ス  
福岡監査官兼八幡監査官ヲ命ス (七月初海軍省)  
海軍主計中尉 岩松 悌二郎  
中華民國香港方面ニ於ケル準備購入材料物品費支拂

海軍公報(部内限) 第四千五百五十二號 昭和十七年七月二十七日

八〇一

1706

ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス

海軍主計中佐 松岡 嘉一

臨時資金前渡官吏ヲ免ス(セリ)支出官 海軍省經理局  
長)

海軍主計中佐 野中 義忠

第一課兼第二課第三課勤務ヲ命ス(セリ)海軍省軍需  
局)

○ 雜 款

○司令砲艦變更

第一監視艇隊司令ハ七月二十五日司令砲艦ヲ第十福榮  
丸ニ變更セリ

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

隊、司令、主計長宛

隊機關長宛

軍警長宛

(第五驅潛隊)

十五號驅潛艇

十三號驅潛艇

十四號驅潛艇

吳郵便局氣付

第二十五海軍軍用郵便所氣付

(春 田 丸)

1707

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 令 達

官房第四五九七號

本日拜謁ノ際本大臣ニ對シ左ノ 御言葉ヲ賜ハリタリ  
右謹テ傳達ス

昭和十七年七月二十七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

御 言 葉

先般第十一聯合航空隊ニ於テ一同ガ極メテ元氣ニ訓  
練ニ從事セルヲ見テ太ダ満足ニ思フ此ノ上トモ益々  
奮勵努力スル様ニ

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年七月二十七日(月)

海軍大臣官房

1708

(限 内 部)

# 海軍公報(部内限)第四千百五十三號

海軍大臣官房

昭和十七年七月二十八日(火)

## ○令 達

官房第四五八五號

大東亞戰爭(支那事變ヲ含ム以下同シ)ニ際シ海軍ノ勤務ニ服スル部外者ノ身上取扱竝ニ給與ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年七月二十七日

海 軍 大 臣

一 本令ニ於テ大東亞戰爭ニ際シ海軍ノ勤務ニ服スル部外者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

(イ) 海軍部外ノ官公署ニ勤務スル文官、同待遇者、囑託者、雇員、傭人、工員及鑛員竝ニ之等ニ準ズル者ニシテ大東亞戰爭ニ際シ海軍ノ勤務ニ從事スルモノ

(ロ) 海軍徴備船舶ニ非ザル船舶ノ船員ニシテ特ニ指定スルモノ

(ハ) 戦地ニ於テ海軍ノ勤務ニ服シ又ハ海軍ノ任務遂

行ニ協力スル部外者但シ(イ)及(ロ)ニ該當スル者ヲ除ク

(ニ) 前各號ノ外特ニ指定スルモノ

二 前號ニ該當スル者ハ海軍軍屬宣誓規則ニ依リ宣誓ヲ爲サシメ海軍軍屬ト爲スコトヲ得但シ前號(イ)ノ文官、同待遇者ニ該當スル者ハ宣誓ヲ行ハザルモノトス

前項ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲サシムベキ者宣誓前ニ死歿シタルトキハ其ノ死歿ノ日ヲ以テ海軍軍屬ト爲リタルモノト看做ス

三 第一號ニ該當スル者ノ身上取扱ハ特ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ各號ニ依ル

(イ) 第一號(ハ)ニ該當スル者ハ各部内ノ文官、同待遇者、囑託者、雇員、傭人、工員又ハ鑛員ニ準ズ

(ロ) 第一號(ロ)、(ハ)及(ニ)ニ該當スル者ハ別表ニ依リ待遇ヲ附與ス

前項ノ規定ニ依リ待遇ヲ附與セラレタル者ノ身上取扱ハ囑託者ニ在リテハ海軍囑託者身上取扱規

海軍公報(部内限)第四千百五十三號

昭和十七年七月二十八日

八〇三

1709

則、雇員及傭人ニ在リテハ雇員傭人規則ヲ準用ス  
但シ第一號ノロニ該當スル者ノ身上取扱ハ海軍徵  
備船舶船員身上取扱規則ヲ準用ス

四 本令ニ依リ海軍軍屬ト爲リタルモノニ對シテハ海  
軍ノ部隊ニ配屬セラレタル部外ノ文官、同待遇者  
(明治三十八年勅令第四十三號ニ依リ所屬官應ノ定  
員外トシ其ノ補闕ヲ爲スコトヲ得ルモノニ限ル)及  
人夫其ノ他特ニ定ムル者ヲ除クノ外給料又ハ報酬ハ  
之ヲ支給セズ

五 報酬又ハ給料ノ支給ヲ受ケザル者海軍ノ勤務ニ服  
シ爲ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル場合  
ニ於テハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外傷痍ヲ受ケ  
又ハ疾病ニ罹リタル日ヨリ全治又ハ治療打切ノ日迄  
別表ニ依リ給料又ハ報酬ヲ支給スルコトヲ得

六 前號ノ規定ニ依リ有給ノ軍屬ト爲リタル者ノ中療  
養ノ期間一年六月ヲ經過スルモ傷痍又ハ疾病ノ治癒  
セザル爲治療ヲ打切ルヲ可トスル者又ハ治癒シタル  
トキニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ付テハ其ノ身  
分ニ應ジ雇員扶助令又ハ傭人扶助令ヲ適用ス但シ恩  
給法其ノ他ノ法律ノ適用ニ依リ他ノ給與ヲ受クル者  
ハ此ノ限ニ在ラズ

七 報酬又ハ給料ノ支給ヲ受ケザル者ニシテ海軍ノ勤  
務ニ服シ爲ニ死没シ海軍軍屬ト爲リタルトキハ死没  
ノ日ヲ以テ別表ニ依リ報酬又ハ給料ノ額ヲ定ムルコ  
トヲ得

八 前號ノ規定ニ依リ報酬又ハ給料ノ額ヲ定メラレタ  
ル者ニ付テハ其ノ身分ニ應ジ雇員扶助令、傭人扶助  
令、海軍給與令第十章(埋葬料)、大正十五年官房機  
密第三三四號(退職賞與ニ關スル件)及昭和十七年  
海軍省告示第四號(死没者特別賜金賜與規程)ヲ適  
用ス

九 廢應又ハ解隊ト爲ルベキ所轄ニ於テ第五號乃至前  
號ノ規定ニ依リ處理スル必要アリト認ムル者アルト  
キハ身上取扱ニ關スル書類(履歷書、公務傷病ニ關  
スル現認證書又ハ事實證明書、診斷書、考課表等)  
ニ目錄ヲ添附シ所管鎮守府ノ海軍人事部長ニ送付ス  
ベシ  
海軍人事部長ハ前項ノ規定ニ依リ移牒ヲ受ケタル者  
ニシテ諸給與ヲ爲スベキ事項發生シタル場合ニ於テ  
ハ所轄長ニ代リ之ヲ處理スルモノトス  
(別表一葉添)



(別表)

(昭和十七年七月二十八日海軍公報(部内限))

備考	海軍徴備船舶 ニ非ザル船舶 ノ船員ニシテ 特ニ指定スル モノ	附給與標準					報酬給料額	
		區分	勅任官 待遇 嘱託	奏任官 待遇 嘱託	判任官 待遇 嘱託	雇員		傭人
		戰地ニ於テ海 軍ノ勤務ニ服 シ若ハ海軍ノ 任務遂行ニ協 カスル部外者 又ハ特ニ指定 スルモノ	勅任官タルノ 經歷ヲ有スル 者及民間會社 ノ重要職員、 地方有力者等 ニシテ勅任相 當ノ地位經歷 ヲ有スルモノ	專門學校卒業 以上ノ學歷ヲ 有スル民間會 社職員、在郷 軍人、民間幹 部等及社會的 ニ重要ナル地 位經歷ヲ有ス ルモノ	中等學校卒業 以上ノ學歷ヲ 有スル民間會 社職員、在郷 軍人及民間幹 部、國民學校 教員等及社會 的ニ相當ノ地 位經歷ヲ有ス ルモノ	學生及 普通一 般居留 民等ニ シテ通 譯、案 内役又 ハ勞務 ニ從事 スルモ ノ	其ノ 他勞 働ニ 從事 スル モノ	一 判任官待遇以上ノ嘱 託ノ報酬ハ現ニ一定ノ 俸給ヲ受クル者ニ付テ ハ現俸給ヲ基礎トシテ 決定シ其ノ他ノ者ニ付 テハ本人ノ經歷現收入 等ニ依リ適宜之ヲ決定 ス 二 雇員又ハ傭人ノ給料 ハ月額七十五圓又ハ日 額二圓五十錢以內トス
	海軍徴備船舶船員身上取扱規則ニ準ズ						一 判任官待遇以上ノ嘱 託ハ現給本俸ヲ基礎ト ス 二 雇員又ハ傭人ノ給料 ハ月額七十五圓又ハ日 額二圓五十錢以內トス	
		一 學歷ヲ有スル者ニ對スル待遇附與ノ標準ハ左ノ各號ニ依ル但シ特別ノ事情アルモノハ 此ノ限ニ在ラズ (イ) 大學卒業程度ノ學歷ヲ有スル者ハ奏任官待遇又ハ判任官待遇ノ嘱託トス 判任官待遇嘱託ト爲スベキ者ニシテ卒業後四年以上ヲ經過セルモノハ奏任官待遇嘱託 ト爲スコトヲ得 (ロ) 專門學校卒業程度ノ學歷ヲ有スル者ニシテ卒業後五年ニ滿タザルモノハ判任官待遇 嘱託トシ卒業後五年以上ノ者ハ奏任官待遇嘱託トス (ハ) 中學卒業程度ノ學歷ヲ有スル者ニシテ卒業後約五年以上經過シタルモノハ判任官待 遇嘱託トシ約二十年以上ヲ經過シ民間會社ノ重要職員又ハ社會的ニ重要ナル地位經歷 ヲ有スルモノハ奏任官待遇嘱託ト爲スコトヲ得 二 學歷ナキ者ト雖モ民間會社ノ重要職員又ハ社會的ニ重要ナル地位經歷ヲ有スル者ニ對 シテハ相當ノ待遇ヲ附與スルコトヲ得 三 從軍記者、畫家等ニシテ戰地ニ於テ戰死又ハ戰傷病死セルモノハ無報酬ノ嘱託トス						

別表ノ一 (昭和十七年七月二十八日海軍公報(部内限))

區分	戰時増俸		額
	月	額	
部内限勅任待遇者	海軍戰時特例給與規則第一條ニ掲グル地域沿岸ニ派遣セラレタル船ノ乗員	昭和十六年官房機密第一二六三九號第一項第一號及第二號ニ該當スルモノ	其ノ他
同	報酬月額ノ十分ノ四	報酬月額ノ十分ノ四	報酬月額ノ十分ノ二
同	報酬月額ノ十分ノ四	報酬月額ノ十分ノ三	報酬月額ノ十分ノ二
同	報酬月額ノ十分ノ四	報酬月額ノ十分ノ三	報酬月額ノ十分ノ二

別表ノ二 (昭和十七年七月二十八日海軍公報(部内限))

區分	航海増給	日	額
部内限勅任待遇者	海軍給與令第五表、在外海軍部隊艦船臨時給與令又ハ海軍戰時特例給與規則第二表ニ定ムル各科少將ノ航海加俸ノ額		
部内限奏任待遇者但シ年報酬三、六〇〇圓以上ノ者	同	各科少佐ノ航海加俸ノ額	
前項ニ該當セザル者	同	各科特務少尉ノ航海加俸ノ額	
部内限判任待遇者	同	准士官ノ航海加俸ノ額	

別表ノ三 (昭和十七年七月二十八日海軍公報(部内限))

區分	食料		額
	一、食	金	
部内限勅任待遇者	本邦(南洋群島)ノ除ク、滿洲、支那、亞細亞露領	其ノ他ノ外國、南洋群島	三十五錢
部内限奏任待遇者			三十七錢
部内限判任待遇者			三十五錢

官房第四五九一號

當分ノ間艦船乗組ヲ命セラレタル囑託者ニハ特ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依リ戰時増俸、航海増給及食料ヲ支給ス

前項ノ戰時増俸、航海増給及食料ノ支給ニ關シテハ海軍戰時給與規則、海軍給與令第三章第二節及第八章、在外海軍部隊艦船臨時給與令第十二條及第十三條並ニ海軍戰時特例給與規則第三條乃至第五條、第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

本令ハ昭和十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十七年七月二十八日

海軍大臣

(別表添)

官房第四五九二號

當分ノ間大東亞戰爭ニ關シ特設セラレタル部隊等ニ赴任又ハ轉勤スル者ノ家族移轉料支給ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年七月二十八日

海軍大臣

第一條 特設セラレタル部隊其ノ他ツ各部(艦船ヲ除ク)ニ勤務スル者ノ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ左

ニ依ル

(イ) 鎮守府又ハ警備府所屬ノ部隊又ハ各部ニ勤務スル者ニ在リテハ當該部隊又ハ各部所屬ノ鎮守府又ハ警備府ノ所在地

(ロ) 艦隊所屬ノ部隊又ハ各部ニ勤務スル者ニ在リテハ當該部隊又ハ各部所屬ノ鎮守府所在地(特務士官、准士官、下士官及兵ニ在リテハ本人ノ在籍鎮守府所在地)但シ所管ノ鎮守府ナキ特設部隊司令

部ニ勤務スル者ニ付テハ左ノ各號ノ地(特務士官、准士官、下士官及兵ニ在リテハ本人ノ在籍鎮守府所在地)トス

(一) 支那方面艦隊又ハ同部下艦隊所屬ノモノハ佐世保市  
(二) 聯合艦隊又ハ同部下艦隊所屬ノモノハ横須賀市

前項ノ規定ニ該當スル者新勤務地ニ家族ヲ移轉シ難キ事由アルトキハ所轄長ハ本人ノ願出ニ依リ家族移轉料ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

第二條 外戰部隊ニ屬スル艦船又ハ海軍戰時特例給與規則第一條ニ掲グル地域ニ在ル部隊其ノ他ノ各部ニ赴任又ハ轉勤スル者ハ前條第一項、海軍内國旅費規

海軍公報(部内限)第四千五百五十三號

昭和十七年七月二十八日

八〇五

1713

則第十四條及昭和十六年官房第七二一號ノ規定ニ拘ラズ所轄長ノ許可ヲ受ケ郷里其ノ他親近者居住ノ地ニ其ノ家族ヲ移轉スルコトヲ得

前項ノ家族移轉料ハ舊勤務地(初任ノ者ニ在リテハ舊居住地)ヨリ新勤務地ニ至ル旅費額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條 第一條第二項及前條ノ規定ニ該當スル者爾後轉勤其ノ他ノ事由ニ依リ更ニ家族移轉料支給ノ事實ヲ生ジタルトキハ第一條第二項ノ場合ニ在リテハ支給停止前ノ勤務地ヨリ、前條ノ場合ニ在リテハ第一條第一項、海軍内國旅費規則第十四條又ハ昭和十六年官房第七二一號ノ規定ニ依リ其ノ家族ヲ移轉スベカリシ勤務地ヨリ之ヲ支給ス

附則

昭和十五年官房第六六二六號ハ之ヲ廢止ス

(參照) 昭和十五年官房第六六二六號ハ昭和十五年十二月二十四日海軍公報(部内限)

官房機密第九三三三號

大東亞戰爭中海軍軍需部長ハ艦營需品定額表ノ制定ナキ海軍徵備船舶ニシテ船主負擔ニ屬スル物品ノミニテ

ハ任務遂行上支障アリ艦營需品ヲ必要トスル場合ハ備品ハ貸與、一般用消耗品ハ消耗拂トシテ當該船舶ノ長ニ之ヲ供給スルコトヲ得

昭和十七年七月二十八日

海軍大臣

附則

昭和十七年官房機密第六四六〇號ハ之ヲ廢止ス

(昭和十七年五月二十八日海軍公報(部内限)參照)

○ 通牒

官房第四五八六號

昭和十七年七月二十七日

海軍次官

關係各所屬長官殿

身上取扱ニ關スル規定廢止ノ件通牒

左記規定ハ昭和十七年達第二百號及官房第四五八五號施行ト同時ニ廢止セラレタル義ト了知相成度

記

昭和十二年官房第四四六六號

(今次事變ニ關係セル海軍軍人軍屬以外ノ者死没シタルトキノ身上取扱ニ關スル件)

昭和十三年官房第五六〇號

特設艦船ニ非ザル徵備船ノ人取扱ニ關スル件

昭和十三年官房第六一四七號

支那事變ニ關係セル海軍人軍員以外ノ者ノ身上取扱ニ關スル件

(參照) 昭和十七年達第二百號ハ海軍徵備船員身上取扱規則ノ件ナリ

昭和十七年官房第四五八五號ハ大東亞戰爭ニ際シ海軍ノ勤務ニ服スル部外者ノ身上取扱ニ給與ニ關スル件ナリ

人祕第一號ノ五一二

昭和十七年七月二十七日

海軍省人事局長  
海軍省經理局長

關係各所屬長官殿

徵備船中軍屬トシテ殘留セシムベキ一部固有船員身上取扱ニ給與ニ關スル件  
廢止ノ件通牒

左記通牒ハ昭和十七年達第二百號及官房第四五八五號施行ト同時ニ廢止セラレタル義ト了知相成度

記

昭和十四年人祕第一號ノ二

支那事變關係者ニシテ新ニ海軍駐屬人トセラレタル者ノ其申位ニ通報ニ關スル件

昭和十五年海人召第二號ノ二五八

支那方面艦隊ニ於テ徵備船ノ特設艦船ニ非ザル徵備船ノ固有船員等ニ對スル海軍ノ人事取扱ニ關スル件

昭和十六年人祕第七號ノ七〇

徵備船中軍屬トシテ殘留セシムベキ一部固有船員身上取扱ニ給與ニ關スル件  
今次事變ニ關係シ死亡シタル者ノ死亡ノ日ニ海軍軍屬ト爲シタル場合ノ諸給與ニ關スル件

昭和十四年經給第七六號

ト爲シタル場合ノ諸給與ニ關スル件

(參照) 昭和十七年達第二百號ハ海軍徵備船員身上取扱規則ノ件ナリ

昭和十七年官房第四五八五號ハ大東亞戰爭ニ際シ海軍ノ勤務ニ服スル部外者ノ身上取扱ニ給與ニ關スル件ナリ

經給第一三二號

昭和十七年七月二十七日

海軍省人事局長  
海軍省經理局長

關係各應長殿

大東亞戰爭ニ關シ海軍軍屬ト爲リタル者ノ給與ニ關スル件通牒

昭和十七年官房第四五八五號ニ依リ海軍軍屬ト爲リタル者ニシテ海軍ノ勤務ニ服シ爲ラ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死没シタル場合ノ諸給與ハ別表ニ依リ取扱フコトト了知相成度  
(別表添)

○ 辭 令

<p>(各通)</p> <p>臺灣總督府技手 同 岩瀬 正路 同 荒井 正明</p> <p>海南警備府附ヲ命ス(海軍省)</p> <p>臺灣總督府屬 山本 勝義 臺灣總督府技手 庄田 達雄 同 神田 正 同 藤田 惠 同 高雄州技手 齋藤 克巳</p> <p>海南警備府附ヲ命ス(陸軍)</p> <p>臺灣總督府糖業試驗所技師 坂本 敏雄 臺灣公立實業學校教諭 末永 豐志 臺灣總督府技手 吉田 三八郎 臺灣總督府屬 白川 英男 臺灣總督府技手 高梨 周吉 同 岡山 正</p> <p>海南警備府附ヲ命ス(海軍)</p> <p>臺灣總督府技師 庄田 達雄 同 吉田 三八郎 同 齋藤 克巳</p>	<p>海南警備府附ヲ命ス(陸軍)</p> <p>同 末永 豐志</p> <p>臺灣總督府技師 是石 肇 臺灣總督府技手 城戸 義弘 同 濱田 高男 同 倉田 辰二 同 塚田 武文</p> <p>海南警備府附ヲ命ス(海軍)</p> <p>通信書記補 中島 亥中治</p> <p>第二十五海軍軍用郵便所員ヲ命ス 鐵道局書記 北岡 虎吉</p> <p>橫須賀鎮守府附ヲ命ス 同 大村 義之</p> <p>吳鎮守府附ヲ命ス(以上海軍)</p> <p>海軍少將 佐藤 勉</p> <p>吳鎮守府軍法會議判士ヲ命ス 海軍軍醫少佐 松村 吉之 同 織内 平八</p> <p>(各通) 昭和十七年七月及八月施行ノ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試驗臨時委員ヲ免ス</p>
--	--



(各通) 海軍軍醫大尉 小宮山 四郎  
同 齋藤 良作

昭和十七年七月及八月施行ノ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験臨時委員ヲ命ス  
(以上<sup>三三〇</sup>海軍省)

第一課勤務ヲ命ス(三三〇海軍省軍務局)  
海軍少佐 角田 求士

驅逐艦潮、漣ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲  
艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(三三〇支出官 海軍  
省經理局長)  
吳海軍經理部部員 高橋 甫

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス  
海軍主計少佐 河野 新齊  
右同分任出納官吏ヲ免ス(以上<sup>三三〇</sup>同)

海軍主計兵曹長 山本 美氏  
第二十二根據地隊ボシチアナク派遣隊ニ要スル給與  
及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏  
ヲ命ス(三三〇同)

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更  
第五驅逐隊司令ハ七月十八日司令驅逐艦ヲ春風ニ變更  
セリ

○司令潜水艦變更  
第十二潜水隊司令ハ七月六日司令潜水艦ヲ伊號第七  
十一潜水艦ニ變更セリ

○司令艇變更  
第十六掃海隊ハ七月五日司令艇ヲ第三玉丸ニ變更セ  
リ

○郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

隊、司令、主計長宛 第五號掃海艇  
隊機關長宛 第四號掃海艇  
軍醫長宛 第三號掃海艇  
追テ當隊ハ分離行動ヲ豫想セラルニ付各種練習生  
採用試験問題等ハ各艇宛直送相成度  
(第一 掃海 隊)

自今本艦宛郵便物ハ當分ノ間佐世保郵便局氣付八海丸  
宛トセラレ度



尙八海山丸ト本艦ト混同セザル様留意相成度  
(特務艦八海丸)

○郵便物ニ關スル件  
本船宛郵便物等ニシテ左記上下欄宛名ヲ混同シ誤達及  
誤送セラルル向キ多キニ付取扱關係者ニ注意相成度

記

本船宛名

混同誤達セラルル船名

神洋丸(給糧船)	神祥丸	神陽丸	信陽丸
----------	-----	-----	-----

(特設給糧船神洋丸)

○開舍  
七月二十四日佐世保海軍病院大村病舎(大村市大村町  
久原郷)ヲ開舍セリ  
(佐世保海軍病院)

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

懲罰言渡書

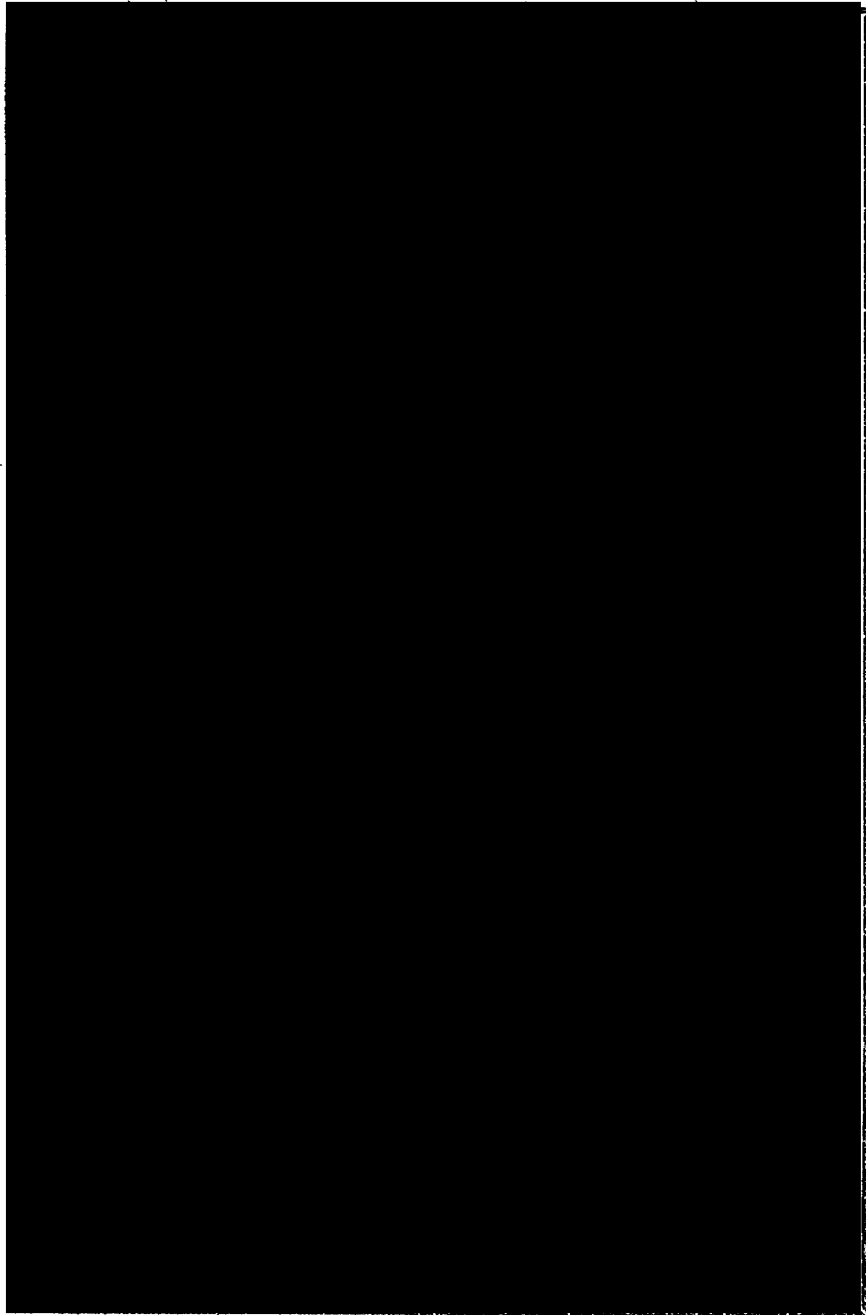
海軍大臣官房

昭和十七年七月二十八日(火)

海軍公報 (部内限) 號外

1720

海軍公報 (部内限) 號外



1721

海軍公報 (部内限) 號外

三

1722

海軍公報 (部内限) 號外

四

1723

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四千五百五十四號

海軍大臣官房

昭和十七年七月二十九日(水)

1724

## ○ 令 達

官房第四五九八號  
 當分ノ間港用品用銷規格別冊ニ依リ試行ス  
 追テ別冊ハ海軍省軍需局長ヲシテ所要ノ向ニ配付セ  
 シム  
 昭和十七年七月二十八日  
 海 軍 大 臣

## ○ 辭 令

(各通)  
 海軍豫備學生 齋 藤 宏  
 同 久 堀 通 義  
 臨時羅津根據地隊司令部ニ派遣ヲ命シ置キタル處之  
 ヲ免ス(七海軍省)  
 海軍豫備學生 井 口 進 八 郎  
 同 松 浦 三 郎  
 同 竹 永 一 雄

## (各通)

同 河 崎 繁 雄  
 同 佐 藤 行 夫  
 同 嶋 田 英 男  
 同 小 林 憲 二  
 臨時第三氣象隊ニ派遣ヲ命シ置キタル處之ヲ免ス  
 海軍豫備學生 橋 本 恭 一  
 臨時水路部ニ派遣ヲ命シ置キタル處之ヲ免シ臨時第  
 五氣象隊ニ派遣ヲ命ス(以上七海軍省)

## ○ 雜 款

○司令驅逐艦變更  
 第八驅逐隊司令ハ司令驅逐艦ヲ荒潮ニ變更セリ  
 ○郵便物發送先  
 自今左ニ依リ發送相成度  
 横須賀郵便局氣付(軍事郵便)  
 ウ壹〇五 ウ壹四八  
 (第八海軍軍需部)

海軍公報 (部内限) 第四千五百五十四號 昭和十七年七月二十九日

八一

横須賀郵便局氣付 第一雲洋丸

(第三監視艇隊)

舞鶴郵便局氣付

(第二號東光丸)

○事務所設置

第三十三號驅潜艇艇員ハ事務所ヲ七月二十三日岡山縣玉野市玉三井造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

驅逐艦高波艇員ハ事務所ヲ七月二十四日神奈川縣三浦郡浦賀町谷戸六番地浦賀船渠株式會社浦賀工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

特務艦足摺艇員ハ事務所ヲ七月二十五日長崎海軍監督官事務所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○解隊

當隊(興義丸、文丸、第二關丸)ハ解隊セラレタルニ付當隊宛ノ郵便物ハ發送セラレザル様留意サレ度(第六十六驅潜艇隊殘務整理員)

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第四百五十五號

昭和十七年七月三十日(木)

## 海軍大臣官房

### ○通 牒

施本機密第一二二五三號

昭和十七年七月二十九日

海軍施設本部長

關係各廳長殿

木造建築物種別ニ關スル件申進

時局ノ進展ニ伴ヒ建築工事ハ愈々激増ノ趨勢ニ在ルニ  
反シ物資、勞力ノ供給ハ益々梗塞状態ヲ呈シツツ在ル  
折柄出來得ル限り無駄ヲ排除シ工事ヲ促進セシムル爲  
當分ノ間木造建築物ハ之ヲ左記級別ニ區分シ實施ノコ  
トニ相成候條訓令資料等工事關係書類ニハ本級別ヲ記  
載シ處理方取計相成度

記

甲 級 在來本設物ト稱シ居タルモノニシテ構造、造  
作、仕上等ハ建築學上成規ノ標準ニ依ルモノ  
トシ一般ニ二十年以上ノ使用ニ堪ヘ得ルモノ

トス

乙 級 在來應急的建物中ノ上位ニ屬スル程度トシ構  
造、造作、仕上等ハ甲級ト丙級ノ中間的ノモ  
トシ約十年間ノ使用ニ堪ヘ得ル程度トス  
丙 級 在來應急的建物中ノ下位ニ屬スルモノニシテ  
構造ハ掘立程度トシ造作、仕上ハ之ニ準ジ約  
五年間ノ使用ニ堪ヘ得ル程度トス

### ○辭 令

鐵道技師 佐久間七郎左衛門  
徵用中自今年額三千六百六拾圓ヲ給ス(二十五日海軍省)

### ○雜 款

○司令驅逐艦變更  
第七驅逐隊司令ハ司令驅逐艦ヲ連ニ變更セリ  
○郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

海軍公報(部内限) 第四百五十五號

昭和十七年七月三十日

八一三

1726



宛 先

發 送 先

一 第七根據地隊

横須賀郵便局氣付

一 木曾丸(砲艦)

「ウ〇〇」ウ壹六五

一 一般郵便物

吳郵便局氣付

一 航空郵便物

「テ貳壹」テ〇〇

一 松良大佐事務所

台北郵便局氣付

一 第二聯合特別陸戰隊

「テ貳壹」テ〇〇

一 東港航空隊支隊

神戸市東出町一丁目  
神戸海軍監督官事務所氣付

一 八月中旬迄

横須賀鎮守府副官留置

一 同 以降

横須賀郵便局氣付

一 第八十四警備隊

「ウ壹壹六」ウ七四

一 第三十一號驅潛艇

東港航空隊殘留隊  
横須賀郵便局氣付

一 第八海軍軍需部

横須賀郵便局氣付  
「ウ〇〇」ウ壹五貳  
「ウ〇壹九」氣付  
横須賀郵便局氣付  
「ウ壹〇五」ウ壹四八

○事務所設置  
照月艦裝具事務所ヲ七月二十二日長崎海軍監督官事務所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去  
第五潜水戰隊殘務整理事務所ヲ七月二十五日撤去セリ

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千五百五十六號

昭和十七年七月三十一日(金)

## 海軍大臣官房

### ○ 令 達

官房第四六七〇號

工作物タル有線通信施設整備並ニ保守ノ爲工作應(特設工作部ヲ含ム)ニ配員ノ線路工員及機械工員ニ要スル費用ハ當該工事費(支拂外費)支辨トス

昭和十七年七月三十一日

海 軍 大 臣

### ○ 退 牒

兵備三機密第三號ノ二一ノ四

昭和十七年七月二十三日

海 軍 省 兵 備 局 長

關係各廳長殿

海軍軍用電報ノ聯送電報取扱ニ關スル件

通牒

兵備三機密第三號ノ二一ノ三ニ依ル首題ノ件ハ左記ニ

依リ取扱開始セラレ候

記

聯接電信所名	聯接局名	取扱開始日
第七海軍軍用電信所	小笠原島郵便局	三月二十七日
第三十一同	ヤップ郵便局	七月二十三日

(三月二十五日本閣參照)

### ○ 辭 令

參千七百貳拾圓	根 來 勝
參千貳百四拾圓	成 富 道 勇
參千八百八拾圓	小 林 柏 治
貳千八百八拾圓	柳 寬 一
貳千七百圓	堀 清 八
貳千六百四拾圓	石 川 義 人
貳千五百八拾圓	山 崎 巖

海軍公報(部内限) 第四千五百五十六號 昭和十七年七月三十一日

八一五

1728

(各通)	貳千四百六拾圓	三輪 長作
(各通)	貳千四百圓	岩下 庄五郎
(各通)	貳千貳百八拾圓	新田 直養
(各通)	貳千貳百八拾圓	石川 公平
(各通)	貳千貳百圓	道山 直
(各通)	千九百貳拾圓	富田 幸三郎
(各通)	千九百貳拾圓	渡邊 秀男
(各通)	千六百貳拾圓	山本 信夫
(各通)	千五百圓	前川 政之助
(各通)	千貳百圓	森 繁
(昭和十六年海軍省)	徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	
(各通)	貳千貳百八拾圓	駒野 久徳
(各通)	貳千百六拾圓	中澤 通理
(昭和十六年)	徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	
(各通)	參千六拾圓	西澤 平治
(各通)	貳千七百六拾圓	莊島 秩男
(昭和十六年)	徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	
(昭和十六年)	貳千五百八拾圓	久保 滿
(各通)	貳千五百貳拾圓	梅田 恭吾
(各通)	千六百貳拾圓	益田 綱一
(昭和十六年)	徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	
(昭和十六年)	參千六百五拾圓	酒井 忠策
(各通)	貳千七百圓	星川 武一郎
(各通)	貳千五百貳拾圓	佐藤 孝雄
(各通)	貳千六拾圓	内山 順一
(各通)	千九百八拾圓	蜂谷 幸太郎
(各通)	千七百九拾圓	押見 城夫
(各通)	千七百四拾圓	鈴木 延夫
(各通)	千五百六拾圓	内藤 辰之助
(各通)	千參百八拾圓	内藤 善太郎
(昭和十六年)	徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	
(昭和十六年)	參千貳百四拾圓	舟越 龍
(各通)	貳千六百四拾圓	松澤 達雄
(各通)	貳千四百六拾圓	久松 將四郎
(各通)	貳千四百圓	山口 貞一
(各通)	貳千四百圓	石川 藤吉
(各通)	貳千貳百八拾圓	寺井 和志藏

貳千貳百八拾圓	阿部 卓三	(三)同)	千七百四拾圓	金野 光三
貳千貳百貳拾圓	藤田 長年	(各通)	千六百八拾圓	河野 四郎
貳千百六拾圓	青木 清義	微用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	千五百圓	佐藤 彬
貳千圓	田畑 美稻	(各通)	水路部附兼第四艦隊司令部附氣象技師	木 澤 綏
貳千貳拾圓	三河内 謹爾	(各通)	水路部附兼第四艦隊司令部附氣象技師	宮前 經吉
千九百八拾圓	田中 正榮	(各通)	水路部附兼第四艦隊司令部附氣象技師	西尾 清重
千九百八拾圓	山田 憲藏	(各通)	同	小川 善朗
千九百八拾圓	福田 久造	(各通)	同	中臺 敏雄
千九百貳拾圓	大川 良次	(各通)	同	花澤 正策
千七百九拾圓	齋藤 憂郎	(各通)	同	坂本 篤造
千六百八拾圓	鈴木 常弘	(各通)	同	吉本 澄與治
千六百八拾圓	吉田 傳吉	(各通)	同	細居 善一
千六百貳拾圓	山形 榮治郎	(各通)	同	兼第四艦隊司令部附ヲ免シ兼第八艦隊司令部附ヲ命ス(各通)
千五百圓	福原 東海男	(各通)	同	海軍武功調査委員ヲ命ス
千四百四拾圓	大町 四郎	(各通)	同	支那事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス(各通)
千貳百八拾圓	黒川 淵	(各通)	同	海軍大佐 新島 信夫
千貳百六拾圓	深井 博	(各通)	同	
千貳百六拾圓	小室 靖	(各通)	同	
千貳百六拾圓	小貫山 信三	(各通)	同	
千貳百六拾圓	若木 祐吉	(各通)	同	

海軍公報(部内限)第四千五百五十六號 昭和十七年七月三十一日 八一七

(各通)

海軍機關大佐 塚野 晋(艦本監)  
海軍豫備大尉 杉本 安政(三驅潛)  
海軍技師 濱村 雅男(艦本監)  
同 菊池 正人(同)

第三十二號驅潛艇審議委員ヲ命ス

(各通)

海軍大佐 鶴岡 信道(艦本監)  
海軍造船中佐 加藤 恭亮(同)  
海軍豫備大尉 阿部 武男(三驅潛)  
海軍技師 福岡 武美(艦本監)

第三十三號驅潛艇審議委員ヲ命ス(以上三三三海軍艦政本部)

○ 雜 款

○航空兵器術練習生入隊ニ關スル件  
當隊航空兵器術練習生ノ教育ハ射爆專修者ノミナル處其ノ他ノ航空兵器術練習生ヲ誤リテ入隊セシメラルル向數多有之ニ付練習生出發ニ際シ注意相成度  
(館山海軍航空隊)

○屏東丸ニ要スル給與其ノ他ノ經費ハ七月一日以降第百一海軍經理部部長ヲシテ之ヲ掌理セシム  
(第一南遣艦隊司令長官)

○事務引繼  
在泰國資金前渡官吏七月二十七日事務引繼了ス  
新任 主計少佐 柴倉 壽夫  
前任 主計中佐 岩田 吉雄

○事務開始  
鎮海海軍軍需部ハ七月一日兵備品(圖書關係)事務ヲ開始セリ

○事務所撤去  
第二十二號掃海艇艦裝員事務所ヲ七月三十一日撤去セリ

○取消

○訂正  
本月二十九日辭令欄中齋藤 宏、久堀通義辭令月日「七月十五日」ヲ「七月二十日」ニ訂正ス